小学五年 国語 —解答と解説

1

問一　A　どう解釈し　B　どうしても　（完答）　21

問二　ウ　22

問三　エ　23

問四　イ　24

問五　ア　25

問六　A　同じ学院か　B　第三次審査　（完答）　26

問七　サンドロをライバルとして強く意識しているので、彼が自由曲で何を演奏するか知りたいから。　27 28 29 30

問八　イ　31

問九　エ　32

問十　ア　33

問十一　イ　34

2

問一　ア　（イ）　ウ　エ　（オ）　（完答）　35

問	解答	番号
問二	イ	36
問三	物質的に豊か	37
問四	ウ	38
問五	教会	39
問六	イ	40
問七	ア	41
問八	エ	42
問九	ウ	43
問十	ウ	44
問十一	最初 人間み 最後 な規律（完答）	45

3

問	解答	番号
①	エ	46
②	ア	47
③	イ	48
④	ウ	49
⑤	ウ	50

4

問	解答	番号
①	イ	51
②	ア	52
③	エ	53
④	オ	54
⑤	カ	55
⑥	ウ	56

5

問	解答	番号
①	厚手	57
②	移植	58
③	改築	59
④	混雑	60
⑤	鉄則	61
⑥	炭素	62
⑦	木造	63
⑧	泣	64
⑨	慣	65
⑩	告	66

（配点）
1〔問三〕2点、〔問七〕8点、他各5点
2〔問九〕3点、他各5点
3 4 5 各2点
計150点

【解説】

1 佐藤まどかの『アドリブ』（あすなろ書房）から出題しました。登場人物たちの会話、表情、しぐさなどから、それぞれの心情を読みとりましょう。

問一 B1 **理由** **関係づけ**

——線①直後の段落に、「技術的にむずかしくてどうしようもない、という難曲ではない…ただ、どうしても単調になってしまい、悩んでいた…この曲をどう解釈しどう表現したいのか、わからないでいた」とあるので、演奏の技術の問題ではなく、「どう解釈しどう表現したいのか、わからない」ために、「単調になって」しまうことに問題を感じているのでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 **具体化** **比較**

——線②の直後に「大げさなリアクションをする」「『おまえにはバッハは理解できないだろーね』…にやついた表情でいった」とあるので、ジャンフランコが「ぼく」をバカにしていることがわかります。また、⑤の六行後に「彼らがぼくをバカにして…アジア系の人間が嫌いなのも知っている」とあるので、才能もない、アジア系の人間がバッハを解釈しようとしていると、バカにしているのでしょう。ア「内心見直して」、イ「驚きを隠せないで」エ「才能にあふれたユージ」「足を引っ張ろう」の部分が不適切です。

問三 A2 **知識**

「口火」とは、ガス器具などに点火するときに使う最初の火のことです。ここから、「口火を切る」とは、物事を他に先駆けて行うこと、きっかけを作ること、会議などで最初に意見を言うこと、という意味です。

問四 B1 **具体化** **比較**

「自然美とバッハの音楽性はちがう」という言葉を、からかいの態度から一転し、——線④「真剣な眼差し」で言っています。ここから、「自然美とバッハの音楽性」を同種のものとする意見だけは受け流すことができない、というジャンフランコの音楽に対する真剣さが読み取れます。ジャンフランコには、バッハの音楽に対する確固たる解釈があるのでしょう。ア「バッハの曲を…説明しているのに」、エ「バッハの曲の美しさをおとしめる」「マルタをけいべつする」の部分が本文の内容と合いません。また、ジャンフランコが「おまえにはバッハは理解できないだろーね」と言った際、「にやついた表情で」「ジョークなのか、本気なのか」とあるので、このジャンフランコのセリフは、ジャンフランコ本人にとってはアジア人をからかっているつもりの軽口です。ですから、ウ「ユージには…理解することはできないということを…認めさせたい」というほどの強い気持ちはジャンフランコにはありません。

問五 B1 **関係づけ**

⑤を含むセリフに、「理屈じゃなくてさ… ⑤ 的なものだよ」とあるので、⑤には、「理屈」と対照的な語が入るはずです。また、「背筋がゾクッとするような」という表現も

あるので、この二つの条件に合う言葉は、選択肢のなかでは「感覚」だけです。

問六 B1 **理由** **関係づけ**

——線⑥「ため息をついた」とあるので、マルタががっかりしている、ゆううつである理由を答える問題です。直前のマルタのセリフの「あたしも。でもさ、くやしいけど、あのバカサンドロがいるからさぁ。同じ学院からふたりもフルートが選ばれる可能性はないだろうし」に注目しましょう。選ばれるのは実力のあるサンドロだろうから、マルタは自分の第三次審査まで行きたいという望みがかなわないと思い、ため息をついているのでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B2 **理由** **推論**

マルタがサンドロの自由曲を聞いたのは、どうしても彼が何を吹くか、気になったからです。そのことは「ぼく」が一度は「さあ…ただ…」と答えを濁しているにもかかわらず「聴こえてんでしょ、なに吹いてんのか教えてよ」と執拗に聞き出そうとしていることからもわかります。なぜそれほどまでにサンドロの自由曲にこだわるのかといえば、——線⑦の四行後で「ぼく」が指摘しているように「相当サンドロを（ライバルとして）意識している」からです。ですから、答えは、①サンドロをライバルと意識している、②自由曲でサンドロが何を吹くか知りたい、という二つの要素が入っていることがポイントになってきます。理由を聞かれているので、文末は「～から。」など、理由であることをはっきり示すものにしましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問八 B1 **関係づけ**

⑧の直後に「なんだかんだいっても、マルタはジャンフランコのヴァイオリンが好きなのだろう…音楽院全体が彼の態度の悪口をいいつつも、演奏には惚れている」「あの端正な顔のジャンフランコが…マルタでもコロッといきそう」などの表現から、ここには「うっとりとした」が入ります。

問九 B1 **理由** **比較**

——線⑨の直前に「ちょっとジェラシーを感じている自分にはっとしたぼくは」とあります。「ジェラシー」とは嫉妬の意味ですが、なぜ嫉妬をしたかというと、問八にもあるように、マルタがジャンフランコのことを思って「うっとりとした目つき」をしたからです。ア・イは「ジェラシー」の部分に触れられていないので不適切です。ウ——線⑨の直前の文に「端正な顔の…マルタでもコロッといきそう」とあるので、ここでの嫉妬はジャンフランコへの才能ではなく、マルタをめぐってのやきもちだと考えられます。

問十 A2 **知識** **関係づけ**

⑩の直前で、「ぼく」がバッハの曲をどう演奏すべき

か思索を巡らせていることに注目しましょう。このことから、ここには、手掛かりのないままあれこれやってみる、という意味の「暗中模索」が入ることがわかります。

問十一 B1 **関係づけ**

脱文挿入の問題では、まず指示語や接続語に注目しましょう。今回の場合「そういえば」です。その直前に「ぼくよりいつも高かったマルタの目線がやけに低い」に関係する文があるものを選びます。マルタの目線が低くなった、ということですから、「ぼく」の方がマルタより背が高くなったということです。

2 河合隼雄『父親の力　母親の力「イエ」を出て「家」に帰る』（講談社）から出題しました。現代の日本の親が子どものしつけを学校に押し付けているという問題を切り口に、しつけとは何か、考察しています。筆者は個人がそれぞれ自由に幸福に生きるために、一定のルールが必要であることを認識すべきだと指摘し、しつけは「人間みんなが幸福に生きていくために必要な規律」を教えることだ、と結んでいます。日本のしつけをめぐる考察ですが、モノが少ない時代と物質的に豊かになった時代との対比、そして日本と欧米との対比に注目しながら読み進めるとよいでしょう。

問一 B2 **具体化** **比較**

「学校が家庭の機能まで請け負」っている例については、――線①の次の段落から三段落にわたって示されています。そこには、家庭での子どもの過ごし方についてまで、学校側の指示を求め責任を負わせようとする親の例が挙げられています。ここではあてはまらないものを選ぶので、学校の本来の機能、すなわち学校内での子どもの教育について示されているものを選べばいいということになりますから、答えはイとオです。

問二 B1 **具体化** **比較**

例で挙げられている「岩宮さん」の話の部分から、「家庭での子どもの過ごし方についてまで」「学校側に申し入れてくる」親がどんな人か書いている部分を探します。そこには、「子どもとのあいだで当然ぶつからなくてはならない葛藤を回避しようとしている親」とありますので、これと同意の表現であるイが正解です。

問三 B1 **具体化** **関係づけ**

「〜ではない状態」の〜の部分をうめる問題ですから、「モノが少ない」と反対の意味の言葉を探します。「大勢の家族が一緒に生活していくことで自然にしつけができるというシステム」があった「モノが少ない」状態と対照的なものとして挙げられているのは、そのシステムが崩れた、戦後の「物質的に豊かな社会」です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B1 **具体化** **比較**

――線④の前後に「日常生活そのものが、すべてしつけにつながって」いる、とはどういうことか、例が示されています。

ア「学校がなかったために、自然と尊敬する大人が…親や祖父母になり」という部分はそこには示されていません。イ「高圧的に…命令し」の部分が不適切です。エ「言葉で明確に伝えられる」とありますが、「日本の場合は、わざわざ言葉に出して言わなくても…自然にでき」ていたとあるので、ここが不適切です。

問五 B1 **具体化**

——線⑤「西洋人が言うところの倫理教育、宗教教育というもの」について説明している部分を探します。西洋におけるそういった教育については、——線②の八行前に、「キリスト教文化圏では、倫理の面は教会が果たしているし、しつけの面は家庭が果たしています」とあります。日本では、家庭で行われてきたそういった教育は、西洋では教会が請け負っているのです。西洋ではしつけは家庭、倫理教育・宗教教育は教会で、というような役割分担ができているのです。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 B1 **具体化** **比較**

「死語」とは、今は使用しなくなった言葉、という意味です。「もったいない」という状況がなくなったから使われなくなったのではなく、「もったいない」という状況であっても、それをいましめる人がいなくなった、ということですから、答えはイです。

問七 B1 **関係づけ**

⑦を含む段落は「西洋の場合なら…」から始まり、その次の段落は「ところが、日本では」と始まっていることから、西洋のしつけと日本のしつけが対比されていることに注目して、この二段落を整理しましょう。

西洋…⑦によってルールをつくり、徹底していたので、時代背景が変わっても子どもはそれを守る。
日本…言葉にしなくてもうまくいっていたので、時代背景が変わった今（言葉によるしばりがないため）子どもは好き勝手にふるまう。

となっていますので、⑦には「言葉」が入ります。

問八 B1 **具体化** **比較**

昔は大勢の家族で日常生活をおくるだけで、自然に子どもをしつけることができました。しかし、今それができないのは、「物質的に豊か」だからです。モノがあふれ、自分が動かなくても、外注すればそれに対応するサービスがある。そうなると、面倒ごとを避け、「自分ではやらずに、なるべく人にさせたい」人が多くなり、子育て、子どものしつけは難しいものになります。このことについて示せているのは、エです。

問九 B1 **関係づけ** **比較**

⑨の前後の文の関係を読みとりましょう。⑨の前では「…わかりました」とあり、後で「…理解しなかったのです」とあるので、ここには逆接の「ところが」が入ります。

問十 B1 具体化 比較

「そういうところ」は日本人が「見逃してしまった」ところですから、「自由主義とか個人主義」を大切にしている欧米の家庭では子どもにルールを課し、それを守らせるということを徹底している（きびしくしつける）ところ、を指していると考えられます。

問十一 B1 具体化

本文の最後の文に、「人間みんなが幸福に生きていくために必要な規律というものがあって、それを子どもに教えるのがしつけなのです」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

3 A2 知識

①エの「あんない」は名詞です。残りは形容詞です。

②すべて名詞ですが、アの「富士山」だけ固有名詞です。

③イの「大きな」は「大きだ」とは言いませんので、連体詞です。他はすべて、言い切りの形にすると、「健康だ」「おだやかだ」のように「〜だ」になり、活用するので、形容動詞です。

④ウの「その」は連体詞です。ほかはすべて、「あれが犬だ」「こっちがぼくの家だ」のように、主語にすることができますので、名詞です。

⑤ウの「競争」は名詞です。他は、言い切りの形の最後の音を伸ばすと、「読むーゥ」「走るーゥ」のように、ウで終わるので、動詞です。

4 A2 知識

熟語の組み立ての問題です。上下の漢字の関係を整理しましょう。

①国旗＝国の旗…上の漢字が下の漢字を修飾している。

②減点＝点を減らす…下の漢字が上の漢字の目的語である。

③男女…上の漢字と下の漢字の意味が逆になっている。

④寒冷…上の漢字と下の漢字の意味が似ている。

⑤国連＝「国際連合」…長い熟語の略語。

⑥日照＝日が照る…上の漢字が主語、下の漢字が述語。